

小学部 自立活動 学習指導案

日時 平成〇年〇月〇日 (〇)

〇校時 〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇

場所 音楽室

指導者 〇〇 (T1) 〇〇 (T2) 〇〇 (T3)
〇〇 (T4) 〇〇 (T5) 〇〇 (T6)
〇〇 (授業補助員)

1 題材名 音で ゆらゆら ~ バランスボールで揺れよう~

2 題材の目標

- (1) 個々に応じた姿勢でバランスボールやシーソーボードに乗り、自ら体を動かしたり、緊張を緩めたりする。
- (2) 友達や教師と一緒に活動しながら、相手を意識したり、かかわりを楽しんだりする。

3 児童と題材

(1) 児童について

本グループは1年生1名、3年生2名、4年生1名、6年生1名の計5名の知的障害と肢体不自由を併せ有する児童で構成された学習グループである。3名が車いすまたはバギーを使用しており、日常生活全般において支援を要する。運動面については、自立歩行ができる児童から、首のすわりが不安定な児童まで実態は様々である。コミュニケーションについては、体を動かしたり、発声したりして自分の感情を表すことができる児童や、誘われると遊具のそばへ行ったり、自分の順番を期待して、教師と視線を合わせて笑顔になったりする児童がいる。また、好きな曲やリズムが聞こえると、自分から体を動かしたり、リラックスして気持ち落ち着いたりして、活動に取り組むことができる児童が多い。

(2) 題材について

題材を設定するにあたって、発達検査や行動観察を通して実態把握を行った。特にMEPA-R(※1)の結果では、運動・感覚分野の姿勢の領域で児童の実態が近いことがわかり、揺れの刺激による働きかけで、それぞれの自立活動の目標を達成することができるのではないかと考える。そこで揺れの刺激を与えられる遊具として、バランスボールとシーソーボードの二つを活用することにした。バランスボールは座位で乗ることで、自発的な上下の揺れを引き出し、全身を使って平衡感覚を養うことができる。大きいバランスボール(直径95cm)は、筋緊張が高バランスポール(直径55cm)は、立位や座位を保持できる児童が足裏を床に着けて乗ることができる。足裏を踏みしめながら姿勢を保持したり、ボディイメージを高めたりすることができる。シーソーボードは様々な大きさや速さの揺れを、繰り返し体験することができる。頭部や手足、身体全体を使ったバランスのとおり方や、立て直し方を身につけることができる。バランスボールは、教師が正面から支えることで教師と1対1でかかわりながら乗ることができ、シーソーボードは友達と一緒に乗ることができる。これらの遊具を使った活動に取り組むことは、友達へのかかわりのきっかけを作ったり、教師へのかかわり(要求)を引き出したりするためにも有効である。

これらは、児童が経験したことがある好きな活動であり、快の反応(表情や発声や動き)を引き出すことができる。児童が活動への見通しをもっているために、安心感を持ち、進んで活動に取り組む姿を引き出すためにも有効であると考え、本題材を設定した。

※1 MEPA-R: ムーブメント教育・療育プログラムアセスメント

子どもの発達を、運動・感覚(姿勢、移動、技巧)、言語(受容言語、表出言語)、社会性(対人関係)の3分野6領域にわたりチェックする個別式検査

(3) 指導にあたって

- 指導にあたっては、次の点に留意する。
- ・児童が自ら体を動かしたり、緊張を緩めたりすることができるように、バランスボールに乗せる姿勢や教師の立ち位置など、昨年度の理学療法士の助言を生かす。また、業児童の姿勢や教師の支援の仕方については、引き続き外部専門家(理学療法士や作業療法士など)からの助言を受けて授業に生かす。
 - ・児童が安心感をもちながら、楽しい気持ちで活動に取り組むことができるように、音楽専科の非常勤講師(T6)は児童の表情や体の動きに合わせてピアノ演奏をする。
 - ・児童が活動を見合い、お互いを意識できるように、場の設定を工夫したり、声をかけたりする。
 - ・学習活動の始まりを意識できるように、年間を通して授業の初めに体操(ボディタッチやマッサージ)をする。
 - ・安全に活動に取り組むことができるように、児童同士の距離や遊具の場所などに配慮する。

4 指導計画（総時数 17時間 本時9 / 17）＊4月～10月の週1時間

学習活動	時数	主な活動内容
(1) バランスボールに慣れよう	2時間	・バランスボールやシーソーボードでの揺れに慣れる。
(2) バランスボールで揺れよう	15時間 本時(7/15)	・バランスボールに乗り、上下、左右、前後、強弱などの揺れを様々な姿勢で味わう。 ・シーソーボードに乗り、様々な大きさや速さの揺れを味わう。 ・遊具での活動を通して、教師や友達へのかかわりを深めたり、広げたりする。

5 本時の計画

(1) 目標

- ・個々に応じた姿勢でバランスボールに乗り、自ら体を動かしたり、緊張を緩めたりする。
- ・バランスボールやシーソーボードでの活動に取り組みながら、発声、表情、身振りなどで教師に気持ちを伝える。

(2) 児童の実態と個人目標

氏名等	個人目標	題材に関する実態
A 1年男子	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスボールの上で、教師の揺れをきっかけに進んで上下に揺れる。 ・「もう1回？」の問いかけに対して、発声や動きで自分の気持ちを教師に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支えがあると、バランスボールの上で座位姿勢をとることができる。教師が揺らすと、手でボールをたたいて喜んだり、上半身で倒れないようにバランスをとったりすることができるようになってきた。 ・バランスボールに乗ると笑顔が多く見られる。バランスボールを両手でたたいたり、発声したりして、遊びたい気持ちを教師に伝えることができるようになってきた。
B 3年男子	<ul style="list-style-type: none"> ・空気を少なめにして柔らかくしたバランスボールに仰向けに乗った状態で、緊張を緩め、手足を伸ばす。 ・シーソーボードに乗りながら、揺らしている教師に注目したり、手を伸ばしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは緊張し、手足に力が入っていた。活動を重ねることで、バランスボールに乗ることに慣れ、表情が和らいだり、少しずつ緊張を緩めたりする場面が増えてきた。 ・シーソーボードでは、周りの教師の顔を見たり、友達と一緒に乗ったりしながら、揺れを楽しむことができる。乗りながら、教師に手を伸ばす場面が見られるようになってきた。
C 3年女子	<ul style="list-style-type: none"> ・空気を少なめにして柔らかくしたバランスボールに仰向けに乗った状態で緊張を緩め、上下、左右の揺れに笑顔を見せる。 ・教師に視線を向けることで、「もっとやりたい」という気持ちを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスボールに乗るときは、期待感から全身に力が入ってしまうが、次第に緊張を緩めることができる。 ・バランスボールは大好きな遊具であり、活動中に教師の呼びかけに応じて、視線や表情で意思表示をすることができるようになってきている。
D 4年女子	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスボールの上で、教師からの揺れをきっかけに体を動かす。 ・教師の「Dさん、楽しいね」の言葉かけに対して、発声や表情などで応える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支えがあると、両足を床に着けてバランスボールに腰掛け、姿勢を保持することができる。教師が肩や腰を支えて上下に揺らすと、喜ぶ様子が見られるようになってきた。 ・体調が良いと、呼名に対して振り返ったり、音のする方向を見たりすることができる。正面にいる教師からの呼びかけに対し、発声することがある。
E 6年男子	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に支えられながらバランスボールに腰掛け、自分から体を前後に動かす。 ・担任以外の教師から名前を呼ばれると、振り向いたり、顔を向けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支えがあると、バランスボールに腰掛けることができる。自分から前後に体を揺らし、笑顔になったり、声を出して笑ったりする場面が増えてきた。 ・シーソーボードに乗っているときに、学級担任に注目したり、目で追ったりすることが多くなってきた。近くから「Eくん」と呼びかけると、呼びかけに対して顔を向けることがある。

(3) 展開

時間 (分)	学 習 活 動	教 師 の 支 援 と 動 き					準 備 物
		児 童 A ・歩行が不安定なため、歩行する際は教師が付き添う。	児 童 B	児 童 C ・首の座りが不安定のため、座位をとるときには教師が後ろから支える。	児 童 D ・発作があるため、常に移動は教師と一緒に行う。	児 童 E	
5	1 始まりの歌を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の様子が見えるように、ピアノを中心に半円の座席配置とする。 授業の始まりを意識し、活動への期待感を高めることができるように、一人一人の児童の顔を見ながら元気に歌う。 					・ピアノ
10	2 音楽に合わせて体を動かす。	<ul style="list-style-type: none"> 教師との触れ合いを楽しむことができるように、一人一人に声をかけながら一緒に身体を動かす。 					・MD ・MD プレーヤー
20	3 遊具で体を動かす。 ・バランスボール ・シーソーボード	<ul style="list-style-type: none"> バランスボールへの期待感を高めるために、最初にバランスボールに乗る児童を顔写真で発表する。(T2) 児童が安全にバランスボールでの活動に取り組むことができるように、滑り止めシートを使ったり、後ろからボールを支えたりする。 バランスボールの活動を十分に楽しむことができるように、バランスボールに乗っている児童の様子を見ながらピアノ演奏のテンポやリズムを工夫する。(T6) 					・バランスボール ・シーソーボード ・滑り止めシート ・バスタオル ・巧技台
		<ul style="list-style-type: none"> 自分から体を動かすきっかけになるように、腰を支えながらバランスボールを上下に揺らす。 バランスボールの上で安定した座位を保持するとともに、安心して揺れを楽しむことができるように、前方から児童の腰を支える。 児童の反応を引き出すことができるように、途中でゆっくり揺れを止め、「もう1回？」と聞く。児童の表情を見ながら反応を待ち、反応が見られた場合、再びボールを揺らすことを繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心してバランスボールに乗ることができるように、慣れている座位姿勢から始める。児童の前後で教師が支えて声をかけ、揺れに慣れてきたところを見て仰向けにする。 緊張を緩め、手足を伸ばすことができるように、表情や身体の動きを見ながら揺らす速度を変える。 自ら教師を見たり、手を伸ばしたりすることができるように、シーソーボードの揺れを止めたり、言葉をかけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> バランスボールに乗りながら緊張を緩めることができるように、小さい揺れから始める。 バランスボールで揺れの違いに気付くことができるように、「横に揺れるよ」「ポンポンするよ」と初めに声をかけ、表情を確認してから揺らす。 「もっとやりたい！」という気持ちを教師に視線で伝えることができるように、時々揺らすのをやめて反応を待つ。反応が見られない場合は「もっとやる？」と問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から体を動かすきっかけになるように、腰を支えながらバランスボールを上下に揺らす。 児童が安定した姿勢で足の裏を床に着けることができるように、巧技台の高さを調節したり、腰を支えたりする。 教師から「Dさん、楽しいね」の言葉かけに集中することができるように、途中で揺らすことを止める。応えることができた場合、再び揺らすことを繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> バランスボールで自分からの動きを十分に引き出すことができるように、バランスボールを後ろから支えて安定させたり、足裏が床に着いていることを確認したりする。 シーソーボードに乗っているときに担任以外の教師から名前を呼ばれると、振り向いたり、顔を向けたりできるように、座る向きや位置を調節する。 	
10	4 終わりの歌を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 友達の様子が見えるように、ピアノを中心に半円の座席配置とする。 授業の終わりを意識し、リラックスした気持ちで授業を終えることができるように、一人一人の児童の顔を見ながら優しい声で終わりの歌を歌う。 					

(4) 評価

<p>【児童】①教師の働きかけをきっかけにして、児童が自発的に身体を動かしたり、緊張を緩めたりすることができたか。</p> <p>②揺れの刺激や教師の言葉掛けに対して、発声、表情、首や視線の動き、身振り、筋緊張の変化などの反応が見られたか。</p> <p>【教師】①児童一人一人の目標設定は適切であったか。②児童一人一人の目標を達成させるための教師の働きかけは適切であったか。③児童一人一人の目標を達成させるための遊具の選択と工夫は適切であったか。</p> <p>④児童一人一人の目標を達成させるための環境設定は適切であったか。⑤児童一人一人の特性や発達段階に応じた支援ができたか。⑥教師間の役割分担や連携は適切であったか。</p> <p>⑦自ら活動に取り組む姿（自発的な身体の動きや緊張の弛緩、発声、表情等による意思表示）を引き出す視点が支援の中に見られ、かつ有効であったか。</p>
